

今村 竜喜議員



南阿蘇観光PRの取り組みは

今村議員

JR九州は熊本地震で被災した豊肥線の不通区間（肥後大津～阿蘇27.3km）は、今秋運行再開を目指している。阿蘇が再び注目され、増加する観光客に対し受入れ準備をしたいと期待している。

東京在住者を対象とした調査結果で阿蘇観光のイメージは1位「阿蘇山」、2位「ない」との回答、食については「ない」「わからない」が8割を占めていた。阿蘇カルデラスーパーマラソンも来年6月に復興イベントとして再開される見込みであり、全国からエントリーされて来る。

各インフラ整備が順次整いつつある中、県は復旧を目前に控えた8月に「阿蘇大復活祭」と銘打った観光キャンペーンを実施する予定である。村はどのような提案をしているのか。



復旧が進む豊肥線

名称を含め県・関係団体で検討中

産業観光課長

現状として既存のイベントに加え、阿蘇立野ダムや阿蘇大橋の工事現場を巡るインフラナイトツアーの開催などを予定している。大橋の袂に新しく展望所・黒川地区の震災遺構・東海大学の震災ミュージアム整備など、創造的復興に資する計画も県や国とともに進めている。

県に対し新阿蘇大橋のライトアップ、立野峡谷でのプロジェクションマッピング、大花火大会など提案している。インフラ復旧のタイミングを逸することなく観光誘客の準備を怠りなく実施したい。

今村議員

震災で崩落した阿蘇大橋は「赤橋」と呼ばれていた。建設中の橋にサブネームを公募し、観光客・地域や地元にしみのあるものにしてはどうか。

今後、新阿蘇大橋展望広場や阿蘇パノラマテラス、数鹿流ヶ滝展望所など整備される予定であり、災害復旧により令和2年度末までに開通や完成になる。通行を遮断するイベントは不可能であり、独創的なPRの具体的な計画は。

新しい大橋のサブネーム公募 今後、県へ提案する

産業観光課長

開通前のイベントとして新しい阿蘇大橋での手つなぎ歓迎セレモニーというアイデアを出している。1回限りとなるが人数的にギネス記録に挑戦できるか県に提案中である。

また、新しい橋のサブネーム公募は今後、県に提案し広く阿蘇郡市町村へ呼びかけていきたい。

フォトスポット整備は、観光局を中心に活動している地域おこし協力隊5名に依頼し、SNS*でよく使われる“映える”、魅力あるスポットの拾い出し、マップ制作を依頼している。



公募を提案したい工事中の新阿蘇大橋（仮称）

※SNSとはソーシャルネットワークサービスの略